

おおわし

新潟市立大鷲小学校 住所 新潟市南区東笠巻 1202
 電話 025-362-5431 ファックス 025-362-5554
 E-mail e607owashi01@city-niigata.ed.jp
 ホームページ <http://www.owashi.niigata-city.ed.jp/>

1年間を振り返って

校長 北村 宏

3月に入り、今年度も残すところあとひと月となりました。今年度は一斉休校こそなかったものの、学校においても新しい生活様式による教育活動が要求され、これまでどおりにはいかないことの連続でした。運動会では応援歌が応援ダンスとなり、9月に予定していた修学旅行は、10月に延期となりました。特に3学期は、学級閉鎖をはじめとして、皆様にご心配やご迷惑をおかけすることとなりました。その中にあっても、授業はもちろん、様々な教育活動にご協力いただいた保護者・地域の皆様に、心から感謝申し上げます。

今年度、大鷲小学校では、「明るく たくましい 大鷲の子」を育てるために、教育目標である「考える 思いやる きたえる」の3分野において重点的に取り組んできました。

考える

- 授業が分かる, 楽しいと感じる
- 友達と考えたり, 話し合ったりする



かかわりあい



i Pad の活用

思いやる

- 相手を見てあいさつする
- 人とかかわることを通して自分や友達のよさに気付く



あいさつ隊



グッジョブプロジェクト

きたえる

- 進んで運動する
- 自分の健康を自分で守ろうとする



マラソン記録会



歯の指導

さらに、基盤となる特別支援教育では、困っている子どもや悩んでいる子ども見逃さずに、細やかな支援が行えるように、「サポート委員会」を開いて、全職員の共通理解の下、支援を行っています。(詳しくは、次ページ以降をご覧ください。)

今、学校が大きく変わろうとしています。今年度から本格的に始まった GIGA スクール構想では子どもたちに、一人一台の iPad が貸与され、授業の在り方そのものが変化してきています。また来年度からは、全市の公立小中学校で、『コミュニティスクール』が開始となり、これまで以上に、学校・家庭・地域の協働が必要とされています。

保護者・地域の皆様とともに、子どもたちにこれからの時代をたくましく生き抜く力を育ててまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

令和3年度の大鷲小学校の「教育の重点」について、各部の評価を紹介いたします。

◆まなび部（研究主任：佐藤美由希）

今年度まなび部会では、子どもたちがかかわりながら学び、「わかる」「できる」を実感できることを目指して、ICTを活用した取組を進めてきました。

【学びの深まりを実感できる授業づくり】

学習内容に適した人数や形態を工夫し、「かかわり」を取り入れてきました。一人一人が課題と向き合い、ペアやグループ、学級全体でかかわりを通して学ぶ姿が見られました。

友達に伝える、友達と考える、友達から学ぶ。かかわりを通して「わかる」「できる」を実感することができました。

【ICTを活用した授業づくり】

各教科でiPadの活用が日常的になり、子どもたちも授業者も慣れ親しみました。ロイロノートを使った調べ学習や学習のまとめ、意見交換など。カメラやビデオ、アプリを活用した学習が広がりました。一人一人が意欲的にiPadを的確に操作し、学習に生かす姿が様々な場面で見られました。

「職員アンケート」より

質 問 項 目	R3 大鷲小
学びの深まりを実感した子ども	89%
授業で、週1回以上ICTを活用できた学級	89%



◆こころ部（生活指導主任：上村奈々緒）

☆自分もみんなも気持ちよく過ごすために

今年度は、上の目標を達成できるよう、以下の3点から取り組みを進めました。

① いつでも誰とでもあいさつをかわそう

よりよいコミュニケーションのためのあいさつ「相手の目を見てあいさつをする」「はきはきした声であいさつをする」ことを意識づけました。あいさつ隊や運営委員会が先頭に立ち、あいさつをしてくれました。全校の92.6%の児童が、「相手の目を見てあいさつしている」と答え、91.1%の児童が「はきはきした声であいさつしている」と答えています。



② お互いのよさを認め合う場を

なかよし班のメンバーでお互いを認め合う活動を行いました。

「すごいね、頑張っているね」「（手伝ってくれて）ありがとう」など、具体的な言葉にすることで自分のよさや友だちのよさを実感できました。アンケートでは、

○友だちのよさを見つけている・・・89.5%

○自分にはよいところがある・・・87.2%

この結果から、互いに認め合える風土が醸成されていることが分かります。



③ いじめ防止の活動

「相手が嫌だと感じることはすべていじめになる」児童全員がこの共通認識の下、どんなことに気をつけなくてはいけないか各学年で話し合いました。「相手を思いやる」ことがお互いに気持ちよく過ごすために大切なことと確認しました。（学校だより2月号に掲載）

◆すまいる（特別支援教育）部（特別支援教育コーディネーター：若杉水緒）

☆子どもに寄り添った支援を☆

子どもの困り感

文章はどうやって書けばいいのかな…
 なんだかイライラするけどどうしたらいいの？
困っているけれど言葉で上手に伝えられない



なぜ言われた通りに
できないのだろう…

怒ったり泣いたりして
どうしたのだろう…



子どもの困り感を軽減させるためには早めの対応が重

合理的配慮を行っています

- ・その子の状況に応じて、個別の配慮や個に特化した指導などを行います。
- ・特別支援学級（すまいる学級）だけでなく、通常の学級でも行います。



複数の職員での支援

複数の職員でつまずきの原因を探り、そのお子さんのための支援方法を考えます。

個別の指導計画の作成

学校で学習上や生活上で障壁となることの解消に向けた配慮について計画を立て、それに基づき支援していきます。

例えば

読むのが苦手

⇒漢字に振り仮名を振る。
 テストをルビ付きにする。

活動の見通しをもちにくい

⇒指示を1つずつ伝える。
 手順を図や数字で示す。

書くのが苦手

⇒ノートや宿題などの書く量の調整



◆元気ジャンプアップ部（体育主任：川崎匠）

子どもの健康な体づくりと、体力の向上を目指して、以下の2つの取り組みを進めてきました。

【元気チェックで健康アップ】

年3回の元気チェック週間や保健指導を通して、子どもが自分自身の体の健康に目を向け、よりよい生活習慣を身につけられるよう取り組みました。今年度は、「朝食の摂り方」と「メディアの視聴時間」に関わる項目で多くの子どもに意識の高まりが見られました。

《元気チェック結果》	6月	11月
朝食はバランスよく食べられた	75.40%	79.40%
テレビとゲームの時間は2時間以内にできた	73.10%	79.20%

【楽しく動いて体力アップ】

昨年度から引き続き、新型コロナウイルス拡大防止のために例年とは内容を変更しながら体育行事やイベントを行ってきました。

運動会では新しい試みとして、第二応援歌をダンス中心の応援に変更しました。応援団が中心となって振付を考え、iPadを使って全校児童に踊り方を伝えました。当日は息の合ったダンスで、それぞれの組が士気を上げる姿が見られました。

今年度は鉄棒設置期間中に多くの児童が自主的に鉄棒運動に取り組む姿（例；鉄棒の順番を守る姿・上学年児童が難しい技に挑戦する姿・上学年に憧れて下学年児童が積極的に鉄棒に取り組む姿）が見られました。

